

「進行癌患者のマネージメント 症状のコントロールと在宅ホスピス」

Outpatient Management of Advanced Cancer

JA Billings 編集

星野恵津夫 訳

この本の著者ビルングス博士は、ボストンの下町で在宅を主とした進行癌患者の診療を行っており、またハーバード大学やマサチューセッツ総合病院専門家チームの一員でもある。その内科学の広い知識と患者の洞察から生み出され、実際的な具体策を丁寧に述べたこの本は、わが国で同じ志をもつ者にとって実に得難い、待望の指導書だと思う。また、著者に会いに行かれたという訳者の翻訳は、実に肌理細かく滑らかで、大変読みやすい。

本書の構成は3部に分かれ、第1部「症状コントロール」では、進行

癌患者によくみられる疼痛をはじめとした様々な症状の診断と治療について詳細に記している。しかし本書の重点は、第2部「心理的・社会的な援助」と第3部「在宅ホスピス」である。第2部は5章に分かれ、(1)「身体ケアの役割—在宅ホスピスに伴う問題点」では、ケアの主体が家族であることを明確にしている。(2)「安心感を得る」では、そのための臨床的アプローチに、①定期的に顔を合わせることで、②常に一貫した接し方をし、信頼を得ること、などを挙げ、患者との交流は信頼と傾聴が基本であると述べてい

る。

そして第3部「在宅ホスピス」では、在宅ケアのメリットとして、病院でのケアを嫌う気持、快適さとプライバシー、慣れ親しんだ安らぎの場所、普通の生活、主体性、身近にいる家族や友人、ケアへの家族の参加、得られる援助とその求めやすさ、便りさ、費用などを挙げて、“生活の質”が病気のものの治療や延命よりも重要だと説く一方で、在宅ケアをロマンチックに考えすぎないようにとも警告している。また、最終章では自宅での臨終を迎える準備や、その臨床的アプローチを詳述している。

このような好著は、臨床医はもちろん、多くの医療職の方に、ぜひ読まれてほしいと思う。

(鈴木内科医院)
(鈴木 莊一)

●B5 256頁 1991年
定価 6,386円(税込) 送料 300円

医学書院 刊(☎ 03-3817-5657)